公開計画の詳細

成果物① プロジェクトの報告冊子

【対象】3 カ国のプロジェクト対象地域の村人、参加メンバーの所属組織である NGO、行政、大学関係者など意識を共有できる人々。

【内容】本プロジェクトの概要、成果、今後の展望に加え、渡航した村人や拠点機関の実務者らの気づきと自国に活かしたいことも盛り込み、日本語及び英語で作成する。

【発信形態】データでの送信のみならず、製本し直接各国の代表へ届け、団体内で共有する他、地域の行政を担う人々にも配布する。

成果物② プロジェクト内容をまとめた映像、資料を含むウェブページ

【対象】3 カ国のプロジェクト参加メンバーである村人、NGO、行政、大学関係者、当事者の団体及びその地域行政官、日本国内外で当該問題意識を共有する人びと。

【内容】本プロジェクトにおける 3 ヶ国の村人や拠点機関の実務者の渡航の様子、コメント、ワークショップの様子などを盛り込み、国境を越えて、協働で、生活の場に即した持続可能な保健及び文化保全のあり方を追求することの重要性を社会へ投げかける内容とする。

【発信形態】京都大学東南アジア研究所に本プロジェクトのウェブページを開設し、誰でも視聴可能にする。大学や研究室のニュースレター等を積極的に用いて広報をおこない、より多くの人々に視聴してもらう。

成果物③　ブータンとミャンマーでの農村再評価プログラムのアクション計画冊子

【対象】本プロジェクト参加者

【内容】本プロジェクト参加者による、日本での学びと交流のプログラムで得られた経験にもとづき、ブータン王立大学シェラブツェ校(ブータン)、マウービン大学(ミャンマー)の関係者がリーダーシップを取り、村人、NGO、行政、大学が市民ネットワークを組織し、そのネットワークをいかした、対象村落での地域活性や高齢者ケア、健康診断などアクションプログラムの実施計画書を作成し、将来の実践目標を明確にする。

【発信形態】報告書冊子のプロジェクト関係者への配布。

予想される波及効果：

本プロジェクトを通して構築されたブータン、ミャンマーにおける大学を拠点とした村人、NGO、行政の個人からなる市民ネットワークが機能していくことで、参加した村人や拠点機関の実務者ら中心となり、作成されたアクションプランの実践が継続され、それぞれの地域の課題を踏まえた農村で暮らすことの再評価を参加者以外の村人や拠点機関の実務者、政府関係者が共有することができるようになる。特に、大学教員が中心的な役割を担い、学生たちの参加を促すことで、若者たちの中に農村で暮らすことの価値の再評価が起き、その自

覚が、村人たちの再評価の自覚を触発する。また、この協働活動を継続するための市民ネットワークを運営するセンターが参加者の所属するブータン、ミャンマーの大学で制度化されていくことが期待される。